

鹿部産ボイルホタテ貝殻の有効活用について

北海道の水産系副産物排出量は、年間45万トンといわれております。その中でも、ホタテ貝殻は全体の約50%を占め、その処理が大きな課題となっております。

鹿部町のホタテ水揚げ量は、平成18年度で12,484トン、平成19年度で13,617トン、平成20年度では10,378トンと推移しております。水揚げされたホタテの内約50%は食品市場へ流通し、約50%はボイルホタテ貝殻として産出されます。

今回、鹿部産ボイルホタテ貝殻製品を、NEXCO東日本・北海道支社様において「アスファルト安定処理路盤材」での試験施工していただいたことは、誠に画期的なことであり、このことは、エコ循環型社会の推進に多いに貢献される場所であると思っております。NEXCO東日本・北海道支社様のご英断に深く敬意を表するところであります。

なお、ボイルホタテ貝殻のリサイクル製品の需要拡大は、水産加工会社・ホタテ養殖事業者の経営安定化に直結し、さらには鹿部町全体の産業振興に大きく寄与するところであり、この度の試験施工を契機に、NEXCO東日本様を始め多方面への活用が推進されることを期待いたします。

今後とも、鹿部町あげて鋭意努力いたしてまいりますので、更なるご支援・ご指導をよろしくお願い申し上げます。



鹿部町長 川村 茂



カーボンニュートラル
(CO₂ 循環図)

